

【R7年度】重点目標の取組・概要（久米田駅周辺整備の推進[市街地形成事業]）

担当課（内線）	都市整備課市街地再生担当（3124）	重点目標の方向性	泉州山手線沿道を中心とした拠点形成とアクセス性の向上
重点目標	2 経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	地域の活性化につながる新たな拠点の整備を進める

現状と課題

久米田駅東側の駅前については、車寄せ空間がなく、朝夕ラッシュ時には、駅前が歩行者、自転車、自動車で混雑し、危険な状況となっており、駅へのアクセス性の向上、歩行者の安全確保が喫緊の課題となっている。

課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）

【中期的(4～5年後)にめざす成果】
 喫緊の課題を解決するために、東側アクセス道路の整備を推進する。
 今回は、段階整備であり、本整備は将来の鉄道高架化時になる。

【成果に向けての各年度の進め方】
 R7年度 用地買収、物件補償
 R8年度 物件調査、用地買収、物件補償
 R9年度 用地買収、物件補償、詳細設計
 R10年度 工事

【R7年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】
 （期 間） R7年4月～R8年3月
 （対象者） 事業区域内権利者
 （内 容） 用地買収、物件補償

R7年度の事業費（内訳）

R7年度 70,538千円
 （内訳）物件調査、用地買収、物件補償

R8年度以降の事業費（ランニング経費）

R8年度 89,700千円
 R9年度 93,500千円
 R10年度 48,200千円

取組の進捗・成果を測る指標

鉄道駅周辺の市街地に活気があると感じている市民の割合（久米田地域）
 8.6%（2022）→増加（2025）

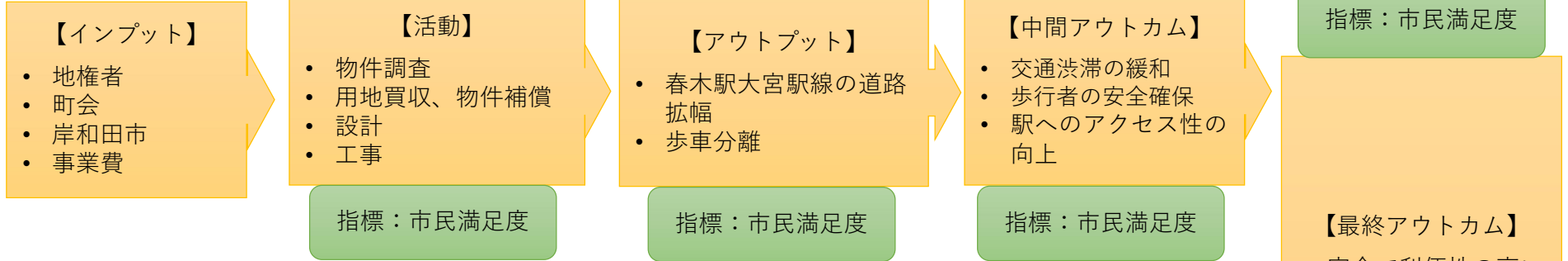
成果・指標が未達成の場合の取扱い

※必ず縮小・廃止時期を記載すること
 未定

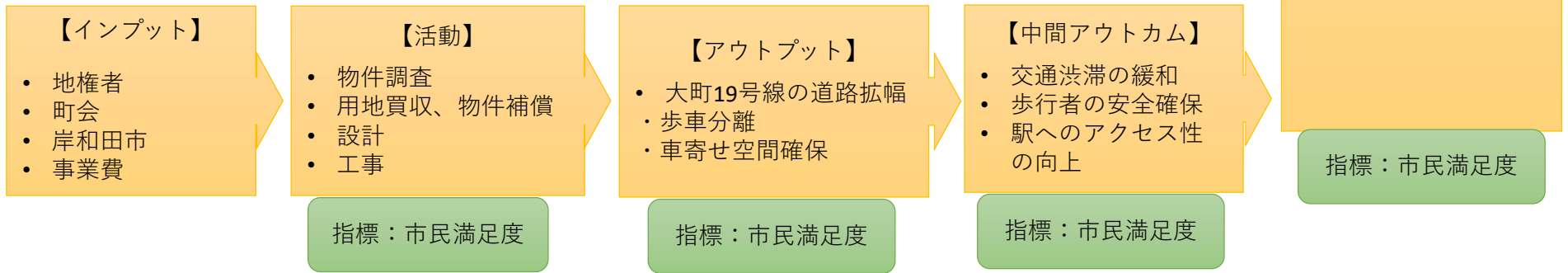
【R7年度】重点目標の取組・ロジックモデル（久米田駅周辺整備の推進[市街地形成事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】

市街地形成事業（春木駅周辺まちづくり事業）



市街地形成事業（久米田駅周辺まちづくり事業）



財源	他団体の状況	その他（行政サービスとしての適正性について など）

【R7年度】重点目標の取組・評価シート①（久米田駅周辺整備の推進[市街地形成事業]）

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



・ 喫緊の課題を解決するために、東側アクセス道路の整備を推進する。

■ R7年度において実施・実現できたこと

- ・ 用地買収（契約まで1件）
- ・ 用地買収（用地協議、代替地確保、土地代金提示まで1件）
- ・ 物件補償（完了1件）
- ・ 物件補償（契約まで1件）

■ R7年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



・ 用地買収、物件補償

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指標名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R7年度実績値
○	鉄道駅周辺の市街地に活気があると感じている市民の割合（久米田地域）	%	8.6（2022）	増加（2025）	7.5

【R7年度】重点目標の取組・評価シート②（久米田駅周辺整備の推進[市街地形成事業]）

■ R7年度において実施・実現できなかったこと

- 用地買収（所有権移転1件）
- 用地買収（契約～所有権移転1件）
- 物件補償（移転1件）
- 物件補償（契約～移転1件）
- 物件補償（補償金提示～契約～移転1件）
- 物件調査（1件）

■ 課題分析

- 地域の課題解決のための事業に対する周辺住民への理解と合意形成の熟度を高める必要がある。

■ ロジックモデルの振り返り

- ロジックモデルで設定したとおりの活動（物件補償、用地買収）が実施できておらず、アウトプットに進んでいない。
- 成果指標についても令和7年度実績値で目標値を達成できていない。引き続き、基準値からの増加を目指して活動の実施に努める

■ 次年度以降の予定・改善内容

- 引き続き、活動（物件調査、物件補償、用地買収）を実施していく。